

主の2025年最後の主日礼拝を皆さまとともにおささげできることの恵みに感謝いたします。この年も主の愛と恵みのうちに1年を過ごすことができました。皆さまとともにこの年も教会としての歩みを続けることができましたこと、本当に感謝しております。

先週私たちは、救い主イエスさまのお誕生を祝うクリスマスの礼拝をともにおささげしました。日曜日のクリスマス礼拝や祝会、そして24日のりとるらむクリスマス会、イブ礼拝と、ともにイエスさまのお誕生を喜び感謝することができ、幸いな時でした。教会の暦ではこのクリスマスの期間、降誕節と呼ばれる期間は1月6日の公現節と呼ばれる日まで続きます。私たちは25日が終わるとすぐに年末年始モードに入ってしまいます。この主日も含めてまだイエスさまのお誕生を祝い喜ぶ期間であること。イエスさまのお誕生の余韻に浸りながら、この礼拝もともにささげることが出来ればと願っています。

足のともしび 道の光

今年私たち八千代聖書教会は、詩篇119篇105節のみことばを年間の聖句としてかかげてまいりました。

あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。

みことばを足のともしび、道の光とする教会としての歩みが守られたこと、神さまが日々みことばによって私たちを養い導いてくださったこの一年であったことを覚え感謝しています。

今年このみことばを年間聖句として選んだのは、昨年制定した教会ビジョンを覚えてのことでした。

八千代聖書教会ビジョン

～聖書を土台とし、キリストの「シャローム」（平安・平和）を分かち合う教会～

1. あらゆる違いを超えて、全ての人がともに神を礼拝する教会（礼拝）

2. 互いに祈り合い支え合い、ともに成長する教会（交わり・教育・奉仕）

3. 地域に根差し地域に仕え、福音を宣べ伝える教会（宣教）

聖書を土台とし、キリストのシャロームを分かち合う教会。聖書を土台とした教会の歩みをすることをともに覚え過ごす一年となればと願い、年間の聖句を選びました。私たち八千代聖書教会がいつも、聖書を土台とした教会であるように。いつもみことばから教えられ戒められ整えられて、みことばに従う教会とますますなっていくことができるよう。今年だけでなくこれからもずっとともに祈り励んでいくことが出来ればと願っています。

この詩篇119篇の作者はみことばを足のともしび、道の光と告白しています。暗闇の中、暗い中進む道のりで、足元を照らすともしび、行く道を照らす光が聖書のみことばであると、歌っているのです。私たちの人生は、教会の歩みは時にどっちに行ったらいいかわからないことがある。それこそ暗闇の中を手探りで進むように、先が見えなくなってしまうこともあります。私自身も牧師としてまた信仰者として、目の前の状況にどのように対応していったらいいのか迷うこと、わからなくなることも現実問題としてあります。しかしそのよう暗闇の中進む私たちに、聖書のみことばが光となってその道を照らしてくれるのだとみことばは教えるのです。

私たちが悩む時、どっちに行くべきか分からなくなる時、神さまがみことばを通して私たちを教え道を示してくださる。そのように聖書は約束しています。私自身、日々のディボーションや祈り会、礼拝で与えられるみことばを通して、自分がどのように歩むべきかをこれまで何度も示されてきました。今年もまた、みことばによって教えられ示され導かれる歩みであったことを主に感謝しております。

神のことばなるイエスさま

そして私たちのためこの地にお生まれくださったイエスさまは、神のことばなるお方として、私たちに神さまの御心を教えてくださるお方であると以前も確認しました。ヨハネの福音書1章1節。

初めてのことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

このことばとは、イエスさまのことを指しています。みことばに従うことは、聖書そのものが記すみことばに従うことであるとともに、イエスさまご自身に従って生きていくこと。聖書に記されるイエスさまのみこころにしたい、聖霊が示してくださるイエスさまのみむねに従って生きていくことである。そのことを私たちは改めて覚えていきたいと思います。

このイエスさまは真の光なるお方としてこの地にお生まれになりました。先日のクリスマスイブ礼拝でも、真の光としてこの暗闇の世界に来てくださったイエスさまの恵みをともに味わいました。イエスさまご自身こうおっしゃっています。今朝の招きの言葉、ヨハネの福音書8章12節。

イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

イエスさまに従う者は、決して闇の中を歩むことがない。イエスさまという光は、いつも私たちを照らし私たちにみこころを示し、私たちをご自身の道へと導いてくださる。イエスさまとともに生きる幸い、イエスさまのみことばに信頼し従う幸いを私たちは覚えて歩んでまいりたいと思います。イエスさまの光にいつも照らされ生きる八千代聖書教会、みことばに照らされて歩む私たち一人ひとりとして、これからもともに歩みを進めてまいりたいのです。

主の2025年の八千代聖書教会の歩みも、神さまのみことばによって養われ導かれ、イエスさまの愛と憐れみによって恵みと喜びに満ち溢れた一年となったことを感謝しています。今年は2名の方の受洗の時が与えられました。A姉妹とB姉妹です。

A姉妹はイースターの礼拝で洗礼を受けられました。A姉妹はゴスペルを通して教会とつながり、20年ほどの長きにわたる求道生活をなさいました。本当に長い間、よく考えよく自問自答して信仰の道を求めて生きてこられた。そのようなA姉妹が洗礼に導かれたこと。多くの方々の祈りや働きかけが豊かに実を結んだことを心から主に感謝しています。礼拝や学びを通して、そして続けて来られたゴスペルの賛美の歌詞などを通して、みことばがAさんの心に届けられ、それが信仰へと成長していった。そんな神さまの恵みを思います。

そしてもう一方、B姉妹は天に召される1月ほど前に、病床で洗礼を受けられました。B姉妹はA姉妹とは対照的に、とても短い求道生活であった、と言うことができるかもしれません。以前から家庭集会にも参加してくださっていたのでみことばは聞いておられましたが、改めて私が病床でみことばを語ると、驚くほど素直にはっきりとみことばを受け入れ福音を信じる信仰を告白される姿がとても印象的でした。そして洗礼を受けられた後のB姉妹のお顔はとても落ち着いて平安に満たされていた。そのような恵みを覚える時でした。みことばには人を救う力がある。死の間際にあっても、その人を生かし輝かせる力がある。そんなことを改めて教えられる時もありました。

A姉妹とB姉妹。神さまがみことばを通して、お二人を信仰の歩みへと導いてくださったこと。真の光であられるイエスさまがこのお二人をご自身の光のうちへと招き永遠のいのちを与えてくださったことを改めて覚え、御名を心から崇める者です。

また今年はC姉妹の転入会もありました。C姉妹は4年前のクリスマスイブ礼拝に出席してくださり、礼拝や祈り会を通して教会の交わりに加わってくださいました。今も木曜日の祈り会や家庭集会に出席くださって、他の方々とともにみことばを中心とした交わりを築いてくださっています。Cさんのご発言にはいつも私自身教えられ励まされています。私たちはこれまで歩んできた道のりは違いますけれども、みことばを通して本当に親しく豊かに交わることができている。みことばを信じる者同士の交わり、みことばを中心とした交わりの豊かさを、私自身特に教えられるここ数年の交わりでもありました。

さらに今年は2名の方の召天もありました。先ほどご紹介したB姉妹と、そのご兄弟であるD兄弟。Dさんは私がこの八千代聖書教会に赴任した時に教会の役員をなさっていて、役員の働きを終えられた後もとてもお世話になった方でした。Dさんの召天は私自身心にぽっかりと穴が空いてしまうような、そんな経験であったことを思います。しかしD兄弟もこの地上のご生涯も神さまの恵みのうちに守られ、みことばによって励ましを受けながら、ご家族と教会の愛に支えられつつ歩まれた。そのような地上での最期であったことを思います。B姉妹もD兄弟も、やがて天で再会することができる。みことばの約束に希望を抱いて、私たちは歩む者でありたいと願います。

愛と赦しの約束

そのようにみことばに励まされ慰められ、またみことばを通して人が救われていく恵みを味わう一方、この一年の自分自身の歩みを振り返る時、そこにはみことばに従い切れない弱さや罪もあった。それもまた事実であると思います。聖書の教える生き方に従うことができず、みことばの約束に信頼しきれずに罪を犯す。そのような私自身の一年の歩みでもあった。イエスさまの愛と赦しに生かされながらも、人を愛せず赦せない私。みことばに従うことよりも自分の願いや欲、人からの目や損得を優先して生きてしまう私。みことばの光に照らされる時、私たちは自分自身の罪や弱さとも向き合うこととなります。この一年を振り返る時、神さまのみことばに従えない弱さや罪の現れる一年

でもあった。今朝も司会の方が祈ってくださったように、思いと言葉と行いにおいてみこころを悲しませる。そんな歩みの連続であったことを告白せざるを得ません。

しかしことばは、私たちに神さまの赦しと愛を教えます。みことばが照らす光、聖書が私たちに教えている最も大切なこと。それは神さまの愛と赦しです。イエス・キリストの十字架を通して与えられた罪の赦し。それがみことばが私たちに教えている大切な約束なのです。ローマ人への手紙4章25節。

主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。

そしてヨハネの手紙第一1章9節。

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

私たちがみことばに従い切れない罪を告白する時、神さまは赦してください。私たちを赦すために、イエスさまはこの地に生まれ十字架で命を捨てよみがえってくださいました。それが聖書の教える福音、良い知らせです。みことばに示される神さまの愛、十字架による赦しの約束を私たちは覚えて、このみことばの光に照らされて、日々神さまに感謝し信頼し従う歩みを続けさせていただきたい。いつも神さまのみことばに立ち返り、赦されている者愛されている者として生きる私たちでありたいと思います。

あなたのみことばは私の足のともしび私の道の光です。

この一年は皆さんにとって私たち教会どのような一年であったでしょうか？今年みことばを通して、どんな発見や気づきが与えられたか。みことばを通してどんな罪を示され、またどんな赦しの恵みを私たちは確認してきたでしょうか？どんな時もみことばを通して私たちを照らし導いてくださる神さまに感謝して、主の2025年の歩みを終えていきましょう。新しく来る主の2026年も、聖書を土台にみことばにいつも聞き従う私たち八千代聖書教会とさせていただきたいと思います。

お祈りをいたします。「天の父なる神さま。主の2025年最後の主の日の礼拝を、愛する方々とともにおささげできます幸いに感謝いたします。あなたがこの年も、みことばを通して私たちを照らし進むべき道を教え、みことばによって救いに与り教会の交わりに加わる方々を与えてくださいましたことを感謝いたします。あなたのみことばに従い切れない弱さや罪を抱えた私たちですが、みことばの約束の通りに私たちを愛し赦し憐んでいてくださることを覚え心から御名を崇めます。あなたのみことばにいつも聞き従い、聖書を土台として生きる私たち八千代聖書教会と、続けてならせてください。主の2026年もあなたの恵みに満ち溢れたものとなりますように、私たち教会を一人ひとりをどうぞ祝福してくださいますように。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」